

# 私と京都

京都工芸繊維大学准教授  
かさはら かずと  
笠原 一人 氏



生まれ育ちは神戸で、現在も神戸在住だが、大学入学時から9年間京都に住み、就職後は通い続けて25年以上が経過した。近代建築史や建築保存再生論を専門としているが、その分野から見ても、つくづく京都は奥の深い街だと感じている。京都の長い歴史の中では、まだ歴史の浅い分野であるが、未知の事柄も多く、新たな発見に立ち会えることを楽しみながら、日々研究教育に取り組んでいる。

研究内容が偶然、個人的なことにつながる場合もある。子供の頃、母親の叔父であった八木精一が、京都で呉服関係の仕事に従事し、一方で現在のプレハブ建築を意味する「八木式トロッケンbau」の特許が商標のようなものを持っていたと、よく聞かされていた。さらに、飼犬に「リッチ」と名付けていたことも。それらのことが長く印象に残っていた。

その後、近代建築史研究の一環で、京都工芸繊維大学の前身校、京都高等工芸学校の教授だった建築家・本野精吾や、京都を拠点に活躍した建築家・上野伊三郎、その夫人でウィーン生まれのデザイナー・上野リチのことを調べていた。その際、本野が顧問を務めた団体「真美会」で、八木がその運営に関わっていたことが判明し、母親の

従妹が、その父親である八木と、本野や上野、夫人のリチとが一緒に写った写真を残していたのだ。

「真美会」は、京都の染物制作の関係者を会員とし、着物の文様や柄、染色技術の向上を図ることを目的として1924年に設立されたもので、大嘉澤田商店に拠点が置かれていた。本野以外に、京都高等工芸学校校長だった鶴巻鶴一や村上宇一、古城鴻一、卒業生で京都染色試験場図案部長だった赤澤鉦太郎らも顧問として活動していた。

本野は、自分の長男のために、「八木式」かどうかは不明だが、トロッケンbauの構法を用いて住宅を設計したことも明らかになった。そして八木の飼犬の名前は、上野リチに由来していたのだ。

「運命」を信じるタイプではないのだが、これらの発見には驚かされた。子供の頃に聞かされた自分のルーツでもある親戚の記憶が、自分の専門分野の史実につながる瞬間に立ち会ったのは、これが初めてだった。近代は、本人や関係者が存命していることもあり、歴史が浅い分野だからこそ、個人的なことにもつながり得る。京都で近代建築史を研究する、別の楽しみを知った瞬間でもあった。

【八木精一について何か情報をご存じの方はご一報ください】

## センターからのお知らせ ~【令和7年7月1日から】開所時間等が変わります~

開所時間の変更	
●相談室 ●交流サロン ●図書コーナー	午前9時から午後5時まで 午前10時から午後5時まで
●ワークショップルーム ●京のまちかど展示コーナー	

※ワークショップルームについては、申請期限までに使用許可の申請を行い、許可されたものに限り、平日・土曜日(祝日及び休館日を除く。)は午後9時まで使用可能です。

使用料の改定	
●ワークショップルーム3	250円/時間
●交流サロン	190円/㎡・日

※まちづくり工房をワークショップルーム3に位置付けるとともに、景観・まちづくりに関するイベントの開催や展覧会での使用などで、交流サロンの一部を独占して使用することが可能となりました。

※詳しくは、施設ホームページをご覧ください。

## ニュースレター 京まち工房 111

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

### 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上  
梅浜町83番地の1(河原町五条下る東側)ひと・まち交流館 京都 地下1階  
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704  
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp HP: https://kyoto-machisen.jp



施設HP 財団HP Facebook  
京都市景観・まちづくりセンター 検索

## 令和7年度賛助会員募集中!

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様			



※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

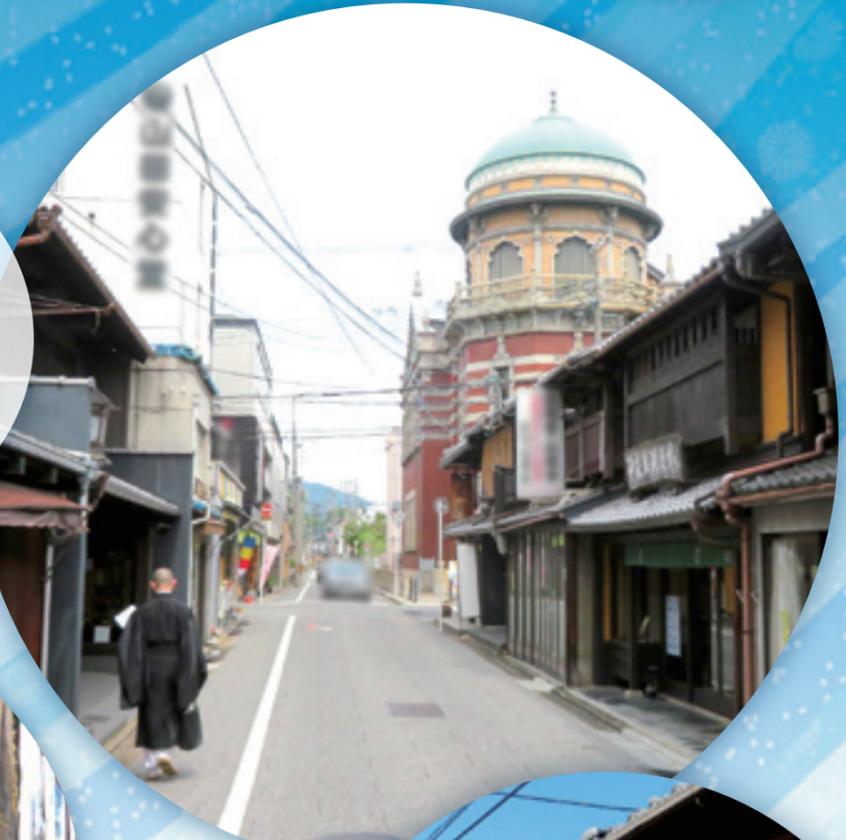
# ニュースレター 111 京まち工房

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

おもなトピック  
防災まちづくり  
京町家関連イベント  
ファンドへのご寄附

### 植柳学区

仏具関係のお店が並び正面通に、様々な建築様式を持つ本願寺伝道院が、街並みのアクセントになっています。正面通は令和6年、住民などの寄附により、石畳風舗装に生まれ変わりました。



### 栗田学区

昔から路地の奥に祀られている龍神様に因んで「龍神路地」と名付けられました。路地の入口に銘板が設置され、お地蔵さまとともにみんなの安全を守ります。



## ごあいさつ

つゆさむ「梅雨寒」という言葉も懐かしい昨今の6月ですが、茅の輪くぐればコンチキチンもすぐそこに。さて、水無月を食べても払えきれない邪気は日頃の備えから。今号では防災に関する各地域の取組をご紹介します。遡ること東風の吹く、梅花の頃に催した京町家イベントのご報告も併せて。

# 続く、始まる、京都の防災まちづくり

京都市景観・まちづくりセンター（以下、まちセン）では、地震や火災に備えて、災害に強く、持続可能なまちを目指す防災まちづくりの取組を支援しています。既に防災まちづくり計画を策定し、取組を続けて、より安心安全なまちを目指している地域と、令和6年度から新たに防災まちづくりを始めた地域の取組をご紹介します。

## 安井学区(右京区)

令和6年度から防災まちづくりの取組を始められた安井学区は、広い敷地を持つ文教施設や畑などが点在する一方、スプロール的な開発が行われたエリアでは、住宅の建て詰めや不規則に入り組んだ道が多く見られ、密集市街地に指定されています。

令和6年度は、防災部長への研修会や防災まちあるき、ワークショップに加え、5年ぶりに開催された「ふれあい広場」での出展など、学区行事を通じて、防災の啓発と地域の情報収集に取り組まれてきました。

2年目となる令和7年度は、防災アンケートを実施し、地域の魅力や課題を更に広く集めながら、防災意識に対する調査を行う予定です。そして、新たな担い手の発掘のため、積極的な呼びかけを進められることになっています。



防災クイズなどを通して啓発活動。

## 有隣学区(下京区)

有隣学区では、まちづくり委員会を中心に、まちの変化に伴う課題に取り組まれてきました。近年は、防災まちづくりの成果を踏まえた有隣独自の避難所運営マニュアルの作成を、まちセンの登録専門家である松原永季氏（スタジオ・カタリスト）と共に進めてこられました。避難所である元有隣小学校の受け入れ人数周知のため、防災訓練での体験コーナーの設置や、女性視点の避難所運営を考える講演会の開催、学区内のホテルと防災協定を結ぶなど、委員会で挙がった課題に合わせて、さまざまな取組をされてきました。そしてこの度、有隣版避難所運営



有隣学区まちづくり委員会 集合写真



## 植柳学区(下京区)

植柳学区は東西本願寺に挟まれた地域で、仏壇・仏具等の地場産業の生産・販売を兼ねた店舗や参拝者の宿坊である和風旅館が軒を連ねています。本願寺の発展とともに歴史を刻んだこの地域では、行き止まり路地や昔ながらの木造建物も多く残されています。

昨年からの防災まちづくり活動を開始し、まちあるきや防災学習に取り組んでいます。今後は、まちあるきで出た課題について広く意見交換の場を持つとともに、防災訓練等において普及啓発を図り、「防災まちづくり計画」の作成に向け取組を進めます。



## 栗田学区(東山区)

令和5年度に防災まちづくり計画を策定した栗田学区では、計画8で定めた「路地の愛称づくり」に継続して取り組まれています。（京まち工房106号でもご紹介）

令和6年度は、4か所の路地の名称が決まり、取付場所が決まった2か所に路地の銘板が設置されました。栗田まちづくり協議会では、引き続き、愛称づくりの取組を通し、防災に対する意識を高めるとともに、事業者や様々な団体と連携し、もしもに備えてスムーズに対応できる地域のネットワークづくりを進める予定です。



レーザーカッターを用いて、DIYで銘板を作製しました。



路地の住民さんと一緒に取り付けました。

2月28日  
開催

## 「京のまちづくり史連続講座」の開催報告

令和6年度を締めくくる講座は、「京のまちなみと町式目一町家と消防とまちづくり」として、住環境文化研究所主宰の丸山俊明先生にご講演いただきました。平安京の昔から京都の消防を紐解いて、江戸時代の京都の町人の様子を、その命がけのまちづくりの姿について、熱くお話しいただきました。「京都の町人は火消の素人だから、火事場で逃げ隠れた」というのは間違いで、大切な住まいである町家を、そして町を守るため、火事だと聞けば老若男女駆け出して行き、助け合ったとのお話に、受講者の皆様は深く感動しておられました。



# 早春の京町家イベント開催報告

令和7年1月～4月にかけて開催した京町家関連のイベントをご紹介します。

## 京町家再生セミナー

「京町家が支える食文化  
—種麴づくりを生業として—」

3月9日  
開催

東山で300年以上にわたって種麴の製造を続ける「菱六もやし」こと(株)菱六代表取締役社長の助野彰彦氏に、京町家で営まれてきた種麴製造の歴史や、発酵文化についてのお話を伺い、座敷とトオリニワを見学しました。



セミナーの様子

会場：菱六もやし  
(東山区松原通大和  
路東入二丁目轆轤町)

## 京町家相談員研修

「京町家再生見学会」

2月21日  
開催

店舗等の複合施設として改修された京町家の見学会を京町家相談員の皆さんを対象に開催しました。改修工事の内容を(株)アラキ工務店の小野敏明氏より、事業内容を(株)ひがしやま企画代表取締役の宮下拓己氏より解説いただきました。



見学会の様子

会場：堀池町の京町家  
(東山区堀池町)

## 京町家等継承ネット

「京町家・空き家なんでも相談会」

1月17・18日、  
4月18・19日開催

京町家の所有者・居住者の皆様を対象に、京町家の保全・継承に向けたご相談について、宅地建物取引士、大工、建築士、弁護士、司法書士、税理士等の専門家にご相談をお受けしました。

主催：京町家等継承ネット、京都市景観・まちづくりセンター  
会場：京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム  
相談件数：【1月】個別相談(予約制)：13件、不動産・建築・法律相談(予約不要)：4件  
【4月】個別相談(予約制)：18件、不動産・建築・法律相談(予約不要)：10件



相談員の皆さん(4/19撮影)

感謝

## 京町家まちづくりファンドへのご寄附



### ヒルトングランドパケーションズより

令和8年春に京都の烏丸五条にて、トラディモ京都五条・ヒルトングランドパケーションズクラブの開業を予定されている、ヒルトングランドパケーションズよりご寄附いただきました。トラディモ京都五条のデザインにあたっては、「京町家」から着想を得たコンセプトとされています。事業を展開する地域社会へのコミットメントの一環として、京町家の保全や地域まちづくりを支援するという趣旨のご寄附です。

### 井筒八ッ橋本舗 より

株式会社井筒八ッ橋本舗からは、長年にわたり継続して、寄附付き商品の売上げ等の一部をご寄附いただいております。令和7年3月に、津田一成副社長と小川紘営業部長が来訪され、高田理事長より感謝の意をお伝えしました。「寄附付き商品」である井筒八ッ橋をご購入いただくと、売上の一部が当ファンドに寄附されます。ファンドへの助力を兼ねてぜひお買い求めください。



寄附付き商品「井筒八ッ橋」



写真：左から、小川営業部長、津田副社長、高田当財団理事長、北川当財団専務理事

### 個人のご寄附について

西村孝平氏、吉田光一氏より、多大なご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

### オンライン寄附決済システム「congrant」にて新たな寄附プランを開始!

京町家まちづくりファンドは、多くの市民・企業からの寄附金によって運営されています。いただいたご寄附は、京町家の保全に直接役立てられます。

皆さまのご寄附に心より感謝申し上げます。減り続ける京町家を次の世代に受け継いでいくため、ご支援をお願い申し上げます。

オンライン寄附決済システム「congrant」を通じてご寄附はこちらをご覧ください

